

園長のつぶやき ⑦

「交流学級担任 A 先生の思い出」



あれほど暑かった10月でしたが、先週から、やっと秋がやってきましたね。18日（土）の運動会は、たくさんの保護者の方にお越しいただきありがとうございました。

当日は、リハーサルでは見られなかった子どもたちの緊張しつつ真剣な表情が忘れられません。子どもたちは大きな行事を通して成長していくとわれていますが、これからのますますの成長が楽しみです。

さて、園だより特別号では、毎月、子育てのヒントになる情報を載せていますが、今回は、自分が教員時代に経験した体験談を載せたいと思います。

今から、35年ほど前の話です。私は2校目の小学校の特別支援学級担任をしていました。在籍児が6人いて、賑やかで楽しいクラスでした。ある日、特別支援学級ではよくあることですが、作品づくりのために6人がそろって学習する時間をつくるために、4年生一人の2校時の音楽の交流学級での学習を変更してもらうことにしました。そこで、4年生のBさんと一緒に、交流学級担任のA先生に「先生、すみませんが、支援学級で2時間目に作品づくりをやりたいので、Bさんの授業を変更していいですか」とお願いに行ったのです。今までは、どの交流学級担任も「いいですよ。Bさん、がんばって作品づくりしてね。」と送り出してくれたのですが、A先生は違っていました。A先生は開口一番「それは困る。」と言われました。そして、Bさんをぐっと抱き寄せて

「あなたがいないと困るのよ。」と言って抱きしめられました。

そのときのBさんの満面の笑顔は今でも忘れられません。そして、しばらく経ってから、「でも、あなたが行かないと中園先生が困るから仕方がないね、作品づくりがんばってね。」と送り出してくれたのです。特別支援学級の子どもを含めて子どもたち一人一人を大切にするA先生の姿勢に頭が下がる思いでした。

A先生はどこの学年を担当されても、学級づくりは抜群でした。学級PTAでは、保護者に「6年生までは、子どもを抱きしめなさい。」と話をされていました。クラスが温かく、どの子にも居場所があるクラスづくりが、求められています。

＊ 交流学級とは、特別支援学級の子どもたちが、主に音楽、図工、体育などの技能教科を通常の学級で受けるときの学級のことです。